

2021年12月21日

北見工業大学大学院
矢作 大輔 殿

2021年度北海道雪氷賞の選考結果について

師走の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、公益社団法人日本雪氷学会北海道支部理事会において、貴殿の論文が北海道雪氷賞「北の風花賞」に選考されましたので、お知らせ致します。

「北の風花賞」

論文名

積雪および粉末氷から生成したメタンハイドレートの純度に比表面積が及ぼす
効果

理由：メタンハイドレートはエネルギー資源としてだけでなく、天然ガスの輸送・貯蔵媒体としても注目されていますが、生成時に水とガスの攪拌時に発生するエネルギー損失が発生する課題があることから、より効率的な生成法の検討が重要であると考えられます。本論文は積雪や粉末氷にメタンガスを加圧し、メタンハイドレートを生成する手法を検討されたものです。雪や氷を利用した生成方法は、寒冷地である北海道で実施される研究として興味深く、また氷試料の比表面積や生成温度と生成するメタンハイドレートの純度の関係について明らかにしつつあり、メタンハイドレートの効率的な生成法の確立に貢献できることが期待されます。よって今後の発展が期待されることから、「北の風花賞」受賞論文として選考されました。

以上

公益社団法人日本雪氷学会
北海道支部長 松澤 勝

2021年12月21日

北海道開発技術センター
小西 信義 殿

2021年度北海道雪氷賞の選考結果について

師走の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、公益社団法人日本雪氷学会北海道支部理事会において、貴殿の論文が北海道雪氷賞「北の六華賞」に選考されましたので、お知らせ致します。

「北の六華賞」

論文名

コロナ禍における雪かきボランティアの受入意向からみる諸課題

理由： 高齢化社会となった現代において、豪雪地帯における雪かきボランティアは雪処理の重要な担い手となっています。一方で、コロナという特殊な状況下では、支援者の確保だけでなく、受援者である受け入れ地域の住民の希望や体制なども重要となります。本論文は、地域や年齢等の属性別等のクロス集計を行うことで、コロナ禍におけるボランティア受け入れ問題について集計し、今後の広域的な雪処理支援の再構築に向けた課題について提示したものです。本論文の成果は、コロナだけでなく感染症拡大状況下や災害時におけるボランティア活動全体に対しても重要な参考データになることが期待されます。従って、雪氷学の発展や積雪寒冷地への社会貢献に顕著な役割を果たす研究と認め、「北の六華賞」受賞論文として選考されました。

以上

公益社団法人日本雪氷学会
北海道支部長 松澤 勝

2021年12月21日

NPO法人雪氷ネットワーク
山田 知充 殿

2021年度北海道雪氷賞「北の蛍雪賞」の贈呈について

師走の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、公益社団法人日本雪氷学会北海道支部理事会において、貴殿のこれまでの功績に対し北海道雪氷賞「北の蛍雪賞」を贈呈することが決まりましたので、お知らせ致します。

「北の蛍雪賞」

受賞名

幅広い分野における雪氷学への貢献

理由： 山田知充氏は、近年のネパールにおける氷河湖決壊洪水の研究で著名な研究者でいらっしゃいますが、北海道大学低温科学研究所在職時には、山地積雪や南極氷床、氷河水文、氷河湖、道路防災に至るまで幅広い分野でご活躍され、雪氷学の研究発展に貢献されました。北海道大学退職後も NPO 法人雪氷ネットワーク理事長として主に北海道内の雪氷災害現場へ赴き、災害防除に関する助言など、社会貢献を続けられました。2006年～2009年まで北海道支部長として、2010年～2011年までは支部評議員も務められ、支部の発展に重要な役割を果たされました。以上のように、長きに渡って北海道における雪氷学の発展と、日本雪氷学会ならびに北海道支部の運営に対する山田氏の貢献は多大であることから、「北の蛍雪賞」を贈呈致します。

以上

公益社団法人日本雪氷学会
北海道支部長 松澤 勝